

# 目次

## [概要](#)

[どのように CIS JDBC トレースを有効に しますか。](#)

## [URL パラメータ](#)

### [オプション 1](#)

### [オプション 2](#)

## 概要

この資料は JDBC クライアントからの Cisco インフォメーション・サーバー ( CIS ) に接続されるとき JDBC トレースを有効にするのに使用できる有用な Java DataBase Connectivity ( JDBC ) URL パラメータを記述したものです。

## CIS JDBC トレースを有効にする方法

### URL パラメータ

JDBC クライアント トレースを行うために、URL パラメータをここに参照して下さい:

- オリジナル JDBC URL ジェネリック:
- オリジナル JDBC URL 例:

「Cisco 情報 サーバクライアント インターフェイス ガイド」の「JDBC ドライバ接続 URL Properties」セクションを参照して下さい。 `&unsupportedMode=silent` のような追加パラメータがある場合、あるようにそれらのパラメータを残すことができます。

### オプション 1

JDBC クライアント トレースを行い、`&traceFolder=<foldername> &traceLevel=all` を追加して下さい。この場合、tracefile この技術情報で URL パラメータへの `CsJdbcDebug.txt` と指名されます。

トレースの一般的な形式:

例 :

注 このオプションでは、トレースファイルは自動的に `CsJdbcDebug.txt` と

### オプション 2

tracefile 名前を、によって規定 するために完全なファイル パスを規定して下さい。  
&traceFile=Full\_path\_to\_filename>&traceLevel=all を使用し、traceFolder パラメータを使用しないで下さい。

トレースの一般的な形式:

例 :